

聖化

Japan Holiness Association

〔発行〕日本聖化協力会

2014.9.29
No.56



きよめられた人は実を結ぶ

東京フリー・メソジスト小金井教会 牧師

宮川 浩二

キリストはその人のあり方はその結ぶ実によって分かれると言われました（マタイ七・20）。また、人が何のためにきよめられるのかという実を結ぶためであると（ヨハネ一五・2、3）。実を結ぶための刈り込みはきよめることが意味され、それはみことばによってなされます。

さて、私たちはどれだけ実を結んでいるのか、しっかりと吟味しなければなりません。それによってどれだけ真実なのが分かってくるからです。実とは品性の実であったり、あかしによって導かれる人々であったりします。もし、私たちのグループが語っていることが真実ならば、それにふさわしく豊かな実を結んでいなければなりません。現状はどうでしょうか。どの実においても不作を嘆くしかない状態なのではないでしょうか。

キリストは種まきのたとえ話をし、その心がしっかりと耕され、みことばが植え付けられるならば、百倍、六十倍、三十倍の実を結ぶと言われました（マタイ一三・18、23）。人の世では2倍、3倍の成長だけですごいことになりませんが、神の世界では少なくともその十倍もの実りがあるのです。神の関わるものはさすがに違います。

きよめを求める集会に集ってくる人たちの心は、道ばたでも岩地でもないと考えられます。すると実を結ばないはいばらの地であるのでしょうか。そこにはどんなものが生えているのでしょうか。この世（時代）の心遣い、富の惑わし、すなわち、地上的な思いです。

どうしたらいいのでしょうか。それには神（聖霊）の働き（耕し）を待ち望むしかないとさえ言えるのですが、聖霊が働くまでも私たちがしなければいけないことがあります。それは何かというとみことばを素直に受け止めるということです。私たちがみことばを信じてみようと思ったり、そうは言っても「時代が時代だから」というようなことを言わないで、単純に信じて従ってみたりすることです。

弁解は、いばらのように繁殖力のあるもので、私たちの心を覆い尽くし、窒息させます。私たちが弁解しないで素直に心を動かすならば、神も豊かに働いてくださって、大いなるみわざをしてくださることでしょう。今こそ、そうすべき時ではないでしょうか。

もくじ

- 巻頭言メッセージ…………… p.1
- 論説：こわくない宣教大会って、どうよ！ …… p.2-3
- 証し：きよめの恵みは、耐える恵み …… p.4-5
- 創立 30 周年記念聖化大会 …… p.6
- R・スミス博士紹介、新刊書紹介 …… p.7
- 今年の聖化大会日程、編集後記 …… p.8

こわくない、宣教大会って、どうよ！

「招き」はどうする？ 宣教大会再考

日本ホーリネス教団 東京聖書学院院長 錦織 寛

ある集まりで、最近の献身者不足について、ひとりの信徒の方とこんな会話をした。

「最近の宣教大会って怖くなくなりましたよね」

「え、それってどういうこと？」

「昔は宣教大会って自分も献身して伝道者にならないといけないかもしれないって聞いていて思ってしまったので、出席するのが怖かった。でも最近の宣教大会って怖くないんですよ」

え？ それって結構重要なことを言っているのかもしれない……聞きながらそう思った。宣教大会は聖会の非常に大切な集会であり、何回かの聖会が連続してもたれる時には、最後の集会が宣教大会だ。それは聖化は必ず、個人の心のきよめにとどまることなく、宣教や教会形成につながるのだという聖化理解の表れであると共に、転機としての聖化を経験するためには「全き献身」が必要だと語られてきたのだ。そうであるのに、最近の宣教大会はソフトタッチで、パンチがきいていないというのである。

*

宣教大会が怖いなんて

確かに宣教大会はソフトタッチになったのかもしれない。しかし、それは何も悪いことではない。かつての宣教大会では、聴衆を鼓舞し宣教への情熱を駆り立てさせようとする傾向が強かった。そこでは、有無を言わずその生涯をささげて牧師・伝道者・宣教師になる決断をすることが推奨され、それが最高の形の献身であるかのような迫りが与えられた。そして、伝道者としての決断をできない者には「直接献身者」を祈りや献金、忠実な教会生活で支えることが求められた。ただ、あくまでも「直接献身」こそが神の求められる最高の形の献身なのだと思うせるかのようなアプローチがされた。(そもそも「直接」献身という言葉自身が不思議で不愉快な言葉だ。そこには牧師にならない人は「間接献身」と言いたいかなのような響きがある)。

しかし、献身に対するバランスのとれた理解が広まるにつれ、宣教大会での招きも変わって来た。ある意味、牧師、伝道者になることだけが献身だとか、それがワンランク上の献身だという形の語りはなくなり、すべてのクリスト者がそれぞれの賜物と召しによって、それぞれの仕方と献身するものであって、すべての人が全的献身を求められている、という招きである。また伝道も決してトラクト配付や、伝道集会を持つこと、個人伝道だけではなく、生活のあり方全体が問われるようになった。この理解は極めて聖書的である。確かに、伝統的な？ 宣教大会では、強迫的な招きもあったかもしれない。あなたは伝道者にならなかつたら、神様の御旨の中を歩んでいることになる……と言われているかのような語りかけである。そのような中で、主に召されていると言うよりも、性格的に弱くて、従順な？ 人々が献身して神学校・聖書学院に入ることでも多分にあったかもしれない。しかし、性格的な弱さやゆがみを持っていることのゆえに、後々いろいろな問題につながっていく。また牧師・伝道者コースを選ばなかった者には漠然とした後ろめたさが残ってしまう。

実際、聖書が言っているのは、神のあわれみによる招きとしての献身である。そこには悲壮感はない。そこ



今年も各地で聖化大会が開催されました。そこでは必ず「宣教大会」が持たれます。宣教大会に期待されることは何か、私たちはどのような心構え、覚悟で開催しているのか、あるいは参加しているのか、昨今の献身者の減少と合わせて、真剣に考えなければならないテーマです。

さまざまな大会で実際に荷を担っておられる錦織寛先生が、宣教大会の抱える問題にきっちりとメスを入れ、過去、現在の課題を浮き彫りにしてくださいました。宣教大会を再考するための出発点にいただければ幸いです。

にあるのは恵みであり、また召しに応える喜びである。もちろん、すべての人に全き献身が求められている。それは豊かなキリスト生活の一つの鍵である。

ただ、同時に、もし人が特別な神の召しを聞いたら、喜んで従うことだ。貧しい生活が待っている？ 教会の複雑な問題に向き合わなければならぬ？ がんばっても非難され感謝されるのが少ない？ 楽だとは言わない。だまして入学者をリクルートする気など毛頭ない。でも、私は言いたい。こんなに祝福に満ちた生き甲斐のある楽しい人生はない。世界一大変な職業だなどと暗くなる必要は全くない。もともとこわがる必要などないのだ。宣教大会にあるのは恵みの呼びかけであり、共に主のために立ち上がっていく喜びなのだ。

＊

宣教大会が怖くないなんて

ただ、それでも、冒頭で取り上げた何気ない一言、ばやきに、私は危機感を感じる。宣教大会でも、聖会でも、それを何度か経験しながら、そこで起

こることに怖さを感じなくなってきた、というのは何なのだろうと思うのだ。

聖会に出席するのはある意味、真剣勝負なのだ。御言の前に出て、ひよつとしたら、自分の罪深さや汚れ、不従順などが示されて、悔い改めて新しい歩みを始めなければならなくなるかもしれない。それでもいいのか。それでも神に従うのか。それとも神には我慢していただき、自分のやり方で自分の人生を歩むのか。これが怖くなかったらうそだ。聞き手にも覚悟が必要なのだ。

私は時々、聖会で司会や説教を担当するとき、説教前に聴衆に呼びかけることがある。今日、これから聞こうとしている神の言が何であっても従う覚悟があるか。聞いてから考えますではなく、神の言を聞きたいのだしたら今、決断して、神に申し上げてほしい。

しかし、私はもう一つ空恐ろしいことを考える。ひよつとしたら、最近の聖会や宣教大会で説教者や招きをする者たちが何となく確信を失ってしまい、大胆に御言を語り、招きをするのができなくなってしまうとしたら

…私は大きな危惧を感じないではおれない。聞き手をおどしたり、強迫観念でコントロールしないように本当に注意深くなければならない。しかし、語る側に何らかの迷いがあって、神の恵みを言い切る形で宣言することができなくなってしまう、ソフトなアプローチというより、切れない刀を遠慮がちに振り回すかのような説教になってしまっているとしたら、それは全く楽しくない。本来、牧師として献身することを神に求められている人が、迫りのない宣教大会のために他の道を選んでいるとしたらとても残念だ。また配慮というよりも遠慮に満ちた説教のために、一同が神の前に出て神に献身を誓うということができないとしたら、悪魔はさぞかし楽なことであろう。

聖会に出席することを習慣としたい。そして老いも若きも宣教大会に喜びと覚悟をもって集ってほしい。すでに聖化の個人的な経験を持っている人も、すでに献身して神学校で学び、また牧師として奉仕しているお互いも、自分の原点を繰り返し確認し、自分の姿を確認することがどうしても必要だからだ。

呪われた出来事

昭和十三年三月に、私は福島県相馬郡中村町に生まれました。思春期の多感な時期のことです。高校に入る前の休みの日、落ち着かない気持ちで家を出ました。常磐線の踏切に近づいたとき、一人の戦地帰りの男性が軍服を着たまま、踏切に仰向けで寝ているのに出くわしました。見ると、顔は酒で真っ赤に染まり、そのまま眠り続けていました。街中でよく知られた人で、片足が不自由なため、それをからかう近所の子供たちを杖を振り回して追い払う姿がよく見受けられました。

そこに、顔見知りのおばさんが通りかかり、なんとすーっと通り過ぎて行くのです。一瞬、知らぬ振りをしているんだと、大人の世界をのぞき見た気がしました。しかし同情がまさって、列車が来たら危ないと勇気を出して「起きないと危ないよ！」と二度、三度声をかけました。覚める気配もありませんでした。少し遠くに保線工事の人たちが見えたので、知らせに急ぎました。ようやくたどり着こうとしたとき、向こう側から貨物列車が驀進して来ます。事情を伝えましたが、工事の人たちもどうしようもありません。悲惨な結果は、遠くから知りました。その場を逃げるように家に戻りました。

それからは日夜、苦悶と自責の念に駆られました。家族にも言えない苦しみでした。後で知ったヨブ記さながら、夜は早く朝となり、朝は早く夜となれという状態でした。自らの良心の呵責、呪われたような惨事、罪意識を経験させられました。勉強も手につかない状態で、もし罪を犯すなら、自分も他人も大変なことになると思い

きよめの証し

きよめの恵みは、耐える恵み



イムマヌエル綜合伝道団 宇都宮教会 牧師

山田 隆

知らされました。

若い時の人間的な過ちを恐れて、卒業するとすぐ上京しました。父の知人の世話で東京の浅草橋にあった自動車会社に就職したのです。

自動車の下にもぐって

新米で白の菜っ葉服姿の私は、車のエンジンオイル漏れや故障調べなど地味な仕事から仕込まれました。少しずつ慣れ、仕事を終えて会社の近くの映画館の前を歩き来したものです。二本立て映画の看板が大きく見え、また。世俗的な映画と、もう一本は「聖なる漁夫」という映画でした。これにはいたく感動しました。キリストのことばや、その働きに同伴する弟子を羨ましく思ったものです。一方で、今の時代には、願わしくとも、ありえないことだと思いました。

入信

一九六〇年の初夏、仙台のイムマヌエル教会に出席していた友人が上京して、三人の友を神田に集めて、彼がクリスチャンになった経緯を証してくれました。私はすぐにその方向に進もうと決心しました。それで、さっそく新約聖書を買って求め、読み始めました。キリストの生涯と教え、働き、選ばれた弟子たちのことを知りました。ローマ書からは、すべての人は罪を犯していること、キリストを信じて罪から贖われることを知りました。

ある晩、寮の部屋で、キリストを信じます、今までの罪をお赦しくださいと祈り、信仰に立ちました。「人は

心に信じて義とされ、口で告白して救われる」とあります。仙台教会の友に感謝して、信じたことをはがきで伝えました。教会はインマヌエル丸ノ内教会に案内されました。日曜日の礼拝、まるで警察に出頭する犯罪者のように緊張しながら出席しました。当時は四階建てのビルの中でした。葛田二雄先生が説教しておられました。小柄な体に人を引きつける品徳と熱意を感じました。

求めた聖霊が！

会堂内は横に広く、太い柱が目立ちました。会衆の中に、何人もの副牧や神学生が混じっていることを後で知りました。礼拝後は、午後の聖別会がありました。独特の濃密な霊調でした。支部の雪谷伝道所は国光幾代子先生がなさっており、丸ノ内教会とは違った家庭的な集会でした。そこで多くの養いをいただきました。

信じる時には聖書のみことばがあった方が良いと知り、来会の事情を主牧の葛田先生にお話ししました。ヨハネ伝六章47節「まことに誠に、なんぢらに告ぐ、信する者は永遠の生命をもつ」の聖句をいただきました。

聖別会が第三聖日の午後に行われました。都内の教会も参加するのが通例でした。転機経験と継続的な成長が強調されました。その経験は聖霊経験であること説かれていました。恵みの座が開かれ、皆といっしょに恵みの座に出ておりました。自分としては確かに何回も出て祈ったのですが、うなずきがありません。恵みの座ですまない人は家でも祈りなさいと言われました。

一九六一年の九月のある夜、寮で床に着き、必死に祈



っていました。その時、静かに聖霊が魂の深いところにしみわたるように思えました。神がおられることがよくわかりました。それで、もう十分ですと申し上げました。

献身と見栄えのしないきよめの生涯

聖書を読んでいくうちに間違いが分かるのですが、神が与えてくださった賜物は別として、顕著な救霊の働きや説教、教会建設など、多く用いられると思っていました。主の召しを受けて卒業し、一年目に神学院移転が決まり、竿代照夫先生と土方まがいの道造りに携わりました。卒業して五年間は、何かをするというより、目立つようなことをしないで尽くす働きが課せられました。

在学中、葛田先生は教派を越えて重責を担われ、私は授業中でも車の運転に呼び出されました。結局、八年間ほどお仕えできたことは特権であり、誇りでした。葛田先生が天に召された翌年、地方に出ることを許され、大和高田教会の副牧を二年、現在の宇都宮教会に転任して、ここで四十年の牧会伝道を担ってきました。多くの会員を他教会に送り出しました。献身者はようやく今年で五名になったところです。天に帰られた方々も多く、ただでさえ小さな教会は空っぽになりそうです。

きよめの恵みは、主を信じ耐える恵みと理解しています。不信仰の世に耐え、主と御国を仰いでおります。イザヤ書五三章にある受苦の主イエスさまは、「わたしでは不足ですか」と静かに問われます。主の愛はいつも深い平穏と喜びをもたらします。だからこそ「我らの負い目をもゆるしたまえ」が必要なのです。

直次郎 がえんする？

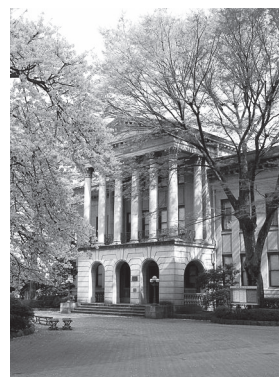


©富無尽蔵

日本聖化協力会

創立30周年記念全国聖化大会 明年10月12日(月、祝日)

全国から記念大会へ！



青山学院大学キャンパス

日本聖化交友会が結成されてから、2015年には30周年を迎えます。これを記念して創立30周年の全国聖化大会を開催します。日程は10月12日(月・祝日)です。会場は東京渋谷にある青山学院大学キャンパスです。

講師には、ジョン・N・オズワルト博士をお迎えします。講師の詳しい紹介は下段に記してあります。

記念聖化大会は、30周年の記念式典、

聖会Ⅰ、Ⅱ、さらにパネル・ディスカッションなど、多彩なプログラムを予定しています。

ぜひ全国の聖化交友会からふるってご参加ください。ホーリネス運動の新しい炎がここから燃え上がることを期待しております。今後、詳細な大会のご案内をお届けいたします。

並行して、記念出版事業として『聖化の説教』全三巻を発行します。すでに旧約の第一巻が出版されました。まもなく旧約第二巻が出されます。日本聖化協力会の先生方に、聖書全巻から聖化のメッセージを汲み上げていただいています。明年は新約編を出す予定です。30周年にふさわしい、記念碑的な出版となると期待しています。

30周年記念大会スケジュールのお知らせ

日時 2015年10月12日(月、祝日)

会場 東京渋谷・青山学院大学キャンパス

10:30～12:00 聖会Ⅰ(記念式典)

聖会メッセージ: オズワルト博士

12:15～13:45 レセプション

14:00～17:00 パネルディスカッション

テーマ「聖化のリバイバルを求めて」

①日本における聖化運動の歴史

発題: 工藤弘雄師

②JHAのビジョン 発題: 松沢力男師

③世界の聖化運動との連携

発題: オズワルト博士

その後、小グループに分かれての交わり

17:30～19:00 聖会Ⅱ オズワルト博士

2015年10月12日

30周年大会の講師

ジョン・N・
オズワルト博士



講師には、第一回聖化大会のメッセンジャーであったジョン・N・オズワルト博士をお迎えします。博士はアズベリー神学校、トリニティ神学校、ウェスレアン・ビブリカル神学校などで旧約聖書を教え、アズベリー神学校の学長を務められた器です。

著書としては日本聖化協力会出版委員会から、『聖き』を生きる人々が出版されています。



ロナルド・E・スミス博士プロフィール

Dr. Ronald E. Smith Ph.D.

2014 年 聖化大会に講師としてお迎えする



ロナルド・E・スミス博士は、1999年 第14回聖化大会に講師としてお迎えいたしました。恵みに溢れて、聖化のメッセージを語ってくださった先生のお姿が、皆さまの記憶にも鮮明に残されていると思います。

スミス博士は、米国オハイオ州に生まれ、青年期をニュージャージー州で過ごし、アズベリー大学、アズベリー神学大学院（M.Div.）、プリントン神学大学院（M.Th.）、ドルー大学院（Ph.D.）で学ばれ、牧師としても優れた実績を残し、その秀でた説教と牧会のゆえに著しい教会成長を見ています。

1993年にはフランシス・アズベリー協会の創設に関わり、1995年には実行委員長に就任されました。1998年に、43歳の若さで、ウェスレー・ヒブリアル・セミナリーの学長に就任いたしました。

米国においてウェスレアン・メッセージを明確に代弁し、力強く説教する器、広く知られた教会の指導者（特にホーリネス運動において）、ウェスレアンの神学者、際立った学者、エバンゼリストと評される器です。

新刊書紹介

ホーリネスを生きる神の民

フロイド・カニングガム博士 聖化大会講演集

カニングガム博士は、歴史学者としての深い学識をお持ちです、講演では、ホーリネス運動の過去から現在、将来までを展望し、私たちの前に新たな地平を開いて見せてくれます。先生の関心はホーリネス信仰が共同体としての教会にどのように受肉するのかという課題です。特にホーリネス陣営で活躍した女性たちに焦点を当てた精緻な講演が目立ちます。関東聖化大会での説教も載せられています。定価1300円＋税。

ホーリネスを生きる神の民
フロイド・カニングガム
聖化大会説教集
ホーリネス信仰を教会に受肉する
飯塚弘道・飯塚俊雄 共訳



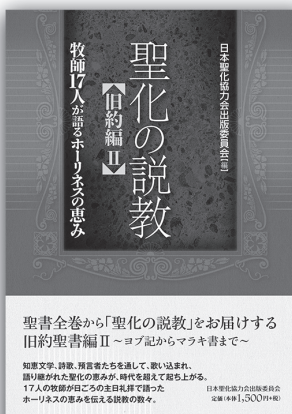
新刊書紹介

JHA 創立 30 周年記念出版 第二巻

聖化の説教 旧約編 II

日本聖化協力会の先生方による説教集
ヨブ記からマラキ書までをカバー

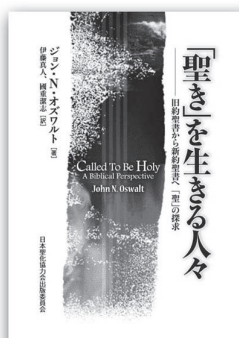
旧約編第二巻は、ヨブ記からマラキ書までを17名の先生方の説教でカバーしています。知恵文学、詩歌、預言者たちを通して、歌い込まれ、語り継がれた聖化の恵みを、聖書から紡ぎ出した説教の数々です。聖書釈義を駆使してみことばに肉薄し、説教者ご自身の証しを交えながら、それぞれの教会で語られたホーリネス説教です。牧会的な温かさが感じられます。30周年の記念出版第二弾です。



聖書全巻から「聖化の説教」をお届けする
旧約聖書編II～ヨブ記からマラキ書まで～

知恵文学、詩歌、預言者たちを通して、歌い込まれ、語り継がれた聖化の恵みが、神代を隔てて届き上る。17人の先生方が伝えた聖化の恵みを説教の数々。日本聖化協力会出版委員会 定価（税別）300円＋税

定価：本体 1500 円＋税



30周年記念大会講師の著書

「聖き」を生きる人々

ジョン・N・オズワルト 著

定価(本体2500円+税)

旧約聖書を専門とする聖書学者の著者が、聖書全体の語る聖化について論じています。旧約聖書の聖霊論をキリストを軸にまとめ、それに基づいて聖書の聖化を論じます。旧新約の聖霊論と、そこから語られる聖化のメッセージは恵みに満ちたものです。

2014 年秋に開催される聖化大会

	大会名	期日	講師	会場
関東	第 29 回関東聖化大会	10/19-21	R・E・スミス師	浅草橋教会/OCCチャペル
東海	第 27 回東海聖化大会	10/23	R・E・スミス師	インマヌエル名古屋教会
	第 67 回Wに学ぶ会	10/24	R・E・スミス師	ナザレン大阪桃谷教会
岡山	第 7 回備前聖化大会	10/26	R・E・スミス師	日本イエス 香登教会
九州	第 25 回九州聖化大会	10/28	R・E・スミス師	基督兄弟団 福岡教会

* 聖化大会についての詳細は、日本聖化協会のホームページをご覧ください。各地域の聖化交友会のご案内が掲載されています。<http://jha.christ.gr.jp/>

お近くの聖化交友会にご加入ください

聖化交友会には教団、教会、個人でお加わりいただけます。聖化の恵みを私たちの心に、そして教会に、さらにお住まいの地域に広げていきましょう。詳細は各地域の聖化交友会にお問い合わせください。

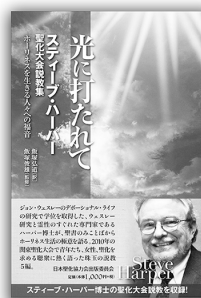
北海道聖化大会／宮城聖化交友会／山形聖化交友会／栃木聖化交友会／関東聖化交友会／東海聖化交友会／ジョン・ウェスレーに学ぶ会／岡山聖化交友会／四国聖化交友会／九州聖化交友会

続々と、電子書籍化を進めます！

電子書籍化第一弾、「エマオの道で」を販売中です。Amazon Kindle ストアで検索してください。

光に打たれて

ステイブ・ハーバー講演



飯塚弘道訳・飯塚俊雄監修

一、〇〇〇円＋税

ホーリネスを聖書の根幹として捉え、神の啓示として語り、勝利の力として訴え、恵みの挑戦として迫る。語りは熱く、確信に満ち、魅力的かつ愛にあふれる説教です。

す。現状は、結実も乏しく、献身者も減少の一途をたどっています。だからこそ目を背けず、直視しながら果敢に取り組んでいかなければならないでしょう。30周年記念大会が、そうした取り組みの場となればと願っています。きよめの証しにも励まされました。聖化の恵みは耐えさせる恵みとして、忍耐力を与えてくれます。(矢木良雄)

編集後記

聖化 56 号をお届けします。JHA が設立されて、明年 2015 年は 30 周年を迎えます。10 月 12 日の記念大会に向けて、準備も着々と進められています。今回の巻頭言、論説は私たちが直面している課題に新しい光を投げかけています。内容は厳しくても、次に繋がる希望を語っておられま

聖化 No.55 2014 年 9 月 29 日発行

